

アポロ11号のハッチ

橋本 澄人

この写真をご存知でしょうか？ これはアポロ11号の司令船に使われていた脱出用ハッチで、現在はスミソニアン航空宇宙博物館に保管・展示されています。このハッチの特徴はハンドルを操作することで、たった5秒で外側に開くことができるというものでした。

1967年1月27日、訓練中のアポロ1号が爆発炎上し、内部に閉じ込められたガス・グリソム船長等3名の宇宙飛行士が死亡する事故が発生しました。この事故の反省から、NASAはアポロ司令船にこのハッチを取り付けて、短時間で船外に脱出できるように改善したそうです。



ところで、この脱出用ハッチにはもう一つのエピソードがありました。1961年7月21日、ソビエト連邦との宇宙開発競争の真っ只中であつたアメリカは、マーキュリー・レッドストーン4号(リバティベル7)で2度目の弾道飛行を実施しました。この時、弾道飛行は無事成功しましたが、大西洋上に着水したリバティベル7の脱出用ハッチが勝手に開いてしまい、司令船は浸水・沈没、また搭乗していた飛行士も溺れかける事故が発生しました。当初このハッチのトラブルの原因は搭乗していた飛行士の操作ミスと誤解され、その措置として、ハッチには内側から簡単に開かない構造が採用されるようになりました。アポロ1号の火災事故で飛行士が船内から脱出できなかったのはこのようなハッチが使用されていた為でした。そして、このリバティベル7の飛行士がアポロ1号の船長であつた ガス・グリソムその人であつたということに、少し悲しい運命を感じてしまいます。

上記の二つのエピソードは映画「アポロ13」、「ライトスタッフ」で紹介されています。興味を持たれた方は、是非一度ビデオをごらんください。

はしもとすみと(科学館デモンストレーター・サイレンガイド)